「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

対　策　分　析　シ　ー　ト

対策メニュー名	高効率ボイラの導入（潜熱回収型等）	シート番号	A12131
システム・設備	蒸気システム	6 類型	設備導入
削減余地順位	全体：14 位　産業部門：8 位　業務部門：33 位		

診断結果と対策提案実施の状況（診断結果は H28～R2 年度診断分、提案実施状況は H28～H31 年度診断分）

表 1．診断結果（対策の削減余地・診断時の提案率）　▶ 削減余地の大きい 5 業種（診断件数 20 以上）

	全体	産業部門	業務部門	21 窯業・土石製造業	78 洗濯等の事業	11 繊維工業	14 パルプ・紙製造業	09 食料品製造業
削減余地［千 t-CO_2］	1,857	1,164	693	714	296	135	118	96
診断件数	3,303	1,216	2,087	35	91	62	36	277
診断時提案数	269	165	104	5	43	13	8	67
診断時提案率	8[%]	14[%]	5[%]	14[%]	47[%]	21[%]	22[%]	24[%]

表 2．対策提案の実施状況

	全体	産業部門	業務部門	21 窯業・土石製造業	78 洗濯等の事業	11 繊維工業	14 パルプ・紙製造業	09 食料品製造業
事業報告書提案数	250	152	98	4	40	9	8	67
事業報告書実施数	63	48	15	2	3	3	2	22
事業報告書実施率	25[%]	32[%]	15[%]	50[%]	8[%]	33[%]	25[%]	33[%]

表 3．実施された対策の内容

	項目		最大値	中央値	最小値	平均値
提案・実施内容	CO_2 削減量	[t-CO_2/年]	153.5	28.7	1.26	37.2
	導入コスト	[千円]	51,340	13,932	3,080	18,452
	運転コスト削減	[千円/年]	5,608.0	631.1	32.5	962.1
	投資回収年数	[年]	142.3	25.7	4.5	33.9
	事業所 CO_2 削減割合	[%]	14.8	2.5	0.299	3.7

表 4．提案された対策の実施理由・未実施理由

実施理由	初期費用が安かったため	1	実施理由の約半数が「補助金を活用できたため」である。
	補助金を活用できたため	18	
	投資回収年数が短いため	1	
	省エネ効果の根拠が明確で確実性があるため	10	
	その他　（無回答を含まず）	10	
未実施理由	初期費用が高かったため	5	
	提案された設備の機能や運用に懸念	2	
	補助金を活用できなかったため	1	
	投資回収年数が長かったため	4	
	省エネ効果の根拠が不明で確実性がなかったため	2	
	既存設備がまだ使えたため	13	
	対策実施により事業所の操業に影響が生じるため	1	
	その他　（無回答を含まず）	14	

表 5．同時に実施されることが多い対策

同時実施の順位	メニュー番号	対策メニュー名	同じ大分類
1	12222	蒸気配管・蒸気バルブ・フランジ等の断熱強化	○
2	12224	スチームトラップとドレン回収装置の管理・更新	○

※ 特記事項

実施された対策について（表 3）

(1) 運転コスト削減の最大例は、ボイラの高効率化と容量適正化を合わせて実施することを提案した（補助金利用）。

(2) 投資回収年数の最大例は、約 15 年を経過したボイラを更新することを提案し実施された（補助金利用）。

(3) 事業所 CO_2 削減割合の最大例は、既設重油ボイラ 1 台を高効率小型重油ボイラ 3 台に更新することを提案し実施された。